

第20回 参加者の声

【学部2年生】

- ・私は6年制だが研究にも興味がある。今回、病院に来た患者さんのデータから疫学的研究も出来ると聞きとても興味を持った。今から基礎科目をしっかり学び、実習に向けて努力したい。
- ・なぜ薬学部が6年制ができたのか、病院薬剤部の仕事内容がどのようなものなのか、今まで聞いた中で一番わかりやすく理解できた。
- ・医師が処方箋を誤ったために、薬剤師が誤った薬を処方し、患者さんが死亡してしまった等、恐ろしい事件がたくさんあった。テストの時に似たようなカタカナの名前を間違ったり、計算ミスをするのはよくある。それが実際の現場で起きていると思うと、自分が薬をもらうのも怖いし、将来処方する立場になった時にミスをしてしまいそうで怖くなった。人の命を預かっているということを肝に命じ、計算を誤ったときに、「少しくらい大丈夫でしょ」と思う気持ちをなくそうと思った。
- ・薬剤師を目指しているの、今回の話はとても参考になった。薬剤師にはよりレベルの高い質が求められ、大きな責任が伴うということが改めてわかった。調剤ミスの例などを聞いて、将来自分に人の命を預かる仕事ができるのか不安になったが、同時にこのような事件を起こさないよう、今からたくさんの知識を身に付けようと思った。自分も質の高い薬剤師になれるように頑張ろうという気持ちが強くなった。
- ・薬剤師教育がなぜ6年制になったのか、社会の中の薬剤師事情等を知ることができ、貴重な体験だった。薬を扱うことの危険性や、薬剤師として自覚すべきことなど、自分の認識の甘さを感じた。また、バレニクリンとニコチンパッチの研究が興味深かった。個人的には大林さんの山の話をもっと聞きたかった。私も様々な山に登りたい。
- ・医療ミスの例を見て、自分が間違えたらどうしようと怖くなった。改めて責任の重い仕事だと感じた。
- ・薬学部で6年制が導入された理由などがよくわかった。調剤ミスの例が思ったよりも多く、改めて薬剤師は責任の重い仕事だと実感した。また研究に関する話もあり、薬学科は薬剤師を目指すことだけが全てではないということもわかり、とても参考になった。
- ・6年制薬学部についてや、薬剤師としての仕事・役割、臨床研究について貴重な話が聞けて良かった。薬の調剤過誤など、薬の量がわずかでも違うだけで、患者さんが亡くなってしまうような重大な影響を及ぼすので、薬剤師として責任を持って、薬剤管理を行う必要があると感じた。
- ・6年制の実務実習の様子など、気になっていた部分があったので、見ることで良かった。
- ・禁煙の話が面白かった。今回の講演で初めて対象が6年制にあった気がしたので、いつもより興味を持てた。
- ・調剤と研究を両立するというのはどのような感じなのかと思ったが、工夫次第で様々な研究が可能なのだとわかった。バレニクリンとニコチンパッチの効果の比較研究が面白かった。剤形の違いが与える患者さんの精神的な影響も、成功率と若干の関係があるのではないかな。今はチーム医療と言いつつ、医師と薬剤師に上下関係が残っていたり、薬剤師と看護師の連携が足りなかったりするのが現状だと思う。改善には、まずは大学での教育が大事なのではないかと思った。
- ・6年制教育についての話は、薬学科の自分にとって、これからの指針となる内容だった。自分が目指すべき薬剤師像が見つかった気がする。
- ・僕は将来、薬剤師免許取得後、博士課程へ進むつもりだが、大林さんの話を聞き、病院で患者さんに対する臨床研究をするという進路もありだと思い、将来への視野が広がった。また山の写真がとても綺麗だったので、自分もいつか登ってみたい。
- ・薬剤師は医師の処方箋に従って処方するイメージが強かったが、薬のプロとして責任を持って正しく処方するだけでなく、医師に、より有効だと思う処方の提案をしていくなど積極的に医療現場に参加していく姿勢が求められていると感じた。また、臨床研究が具体的に何をしているのか、基礎研究とどう違うのかわからなかったの、例を紹介していただき、とてもためになった。
- ・たくさんの薬が処方される際、薬の相互作用による副作用に気をつけなければならず、薬剤師がしっかり気付かないといけないと思った。薬剤師は過失によって、人の命を危険にさらしてしまうこともあるから、とても大きな責任があることを改めて自覚した。禁煙に関する研究は面白かった。テーマだけでなく、その結果からさらに効果的な禁煙法を提案していて、聞いていて飽きない内容だった。
- ・6年制薬学部が実習前にどんなことをするのかかわかり、勉強になった。大学、企業とは別に病院も研究をしていて、病院だと患者の症状等から研究テーマを決められるのは良いと思った。しかし症例数がすくないので、他の病院や企業等との連携が必要だと思った。
- ・自分は薬学科なので、とても興味深い話だった。今している勉強はどうしても将来につながるとは思えずモチベーションがあがらない。今の内容が実習等にどう活きるのか知りたい。

- ・講演を聞いて、薬剤師の資格を取得できる学部にいる以上、臨床の現場に行く覚悟をきちんとしておかなければならないと思った。
- ・臨床研究を薬剤師として働きながらやることを、北大の先生方に勧められるが、時間的にも設備的にも制限があって、大変そうだった。
- ・今回の講演で、薬学部で6年制ができてから、薬剤師に求められていることは何かということが少しわかった気がする。覚えるべきこと、やるべきことは多いが、今できることを少しずつやっていこうと思う。
- ・薬剤師というと薬局で調剤したり単純な仕事だと思っていたが、一文字薬の名前を間違えるだけで、患者の命を危険にさらしたり、とても責任の重い仕事だと改めて感じ、将来実際にそのような仕事をやると思うととても怖くなった。
- ・6年制の学生でもちゃんと研究をしているし、4年制の人たちとは違った観点で研究できるのではないかと思い、私も6年制だが研究もできる薬剤師になれば良いと思った。これからの時代に求められることをしっかり身につけ、良い薬剤師になりたい。
- ・6年制課程の詳しいカリキュラムが知れて良かった。
- ・よく薬剤師は、医師からの指示通り調剤するだけの仕事だと思われているようだが、薬剤師の知識や技術を活かして、医師に意見できる薬剤師になればいいと思う。今後薬局だけでなく、病院でのチーム医療でますます薬剤師の重要性が増してくると思うが、臨床で得た現場の生の声や問題を知ること、基礎研究へも還元できたらと思う。
- ・薬剤師による臨床研究についての話があった。人が対象であるので難しそうだったと思うが、患者さんと関わりながら、より良い医療を目指した研究をするというのは、素晴らしいことだと思うし、やってみたい。
- ・薬剤師の仕事も医師の仕事と同じように、失敗の許されない、怖い仕事だとわかった。また、仕事の種類がたくさんあって、それがまだ増えるかもしれないので、実習の勉強で躓かないか心配になった。薬剤師の研究は何をするのだろうとずっと気になっていたが、手順のスライドでやり方が少しわかったのでよかった。臨床研究はとても難しそう、自分にできるのか不安になった。
- ・臨床現場における薬剤師の役割が変化してきていて、今後どのような人材が求められているのか知ることができた。また臨床研究にも創薬研究にも興味があるので、講演の内容はとても参考になった。
- ・間違いを起こすと死に至るようなことまで起きていて、「間違えてしまった」では済まされないことを改めて感じた。
- ・私は4年制の学生だが、実習の様子などを写真を用いて紹介されていたので、楽しんで聞くことができたし、薬剤師に求められていることは、将来薬を扱う者として心に留めておくべきことと重なる部分もあるので、とても勉強になった。
- ・自分は4年制なので、薬剤師教育について知ることのできる貴重な機会となった。医療ミスを起こさないためには、薬剤に関する正確な知識だけでなく、患者さんや医師とのコミュニケーションが重要であると感じた。
- ・薬学部は薬剤師教育をする現場だと言っていたので、4年制の私としては、少し肩身が狭かったが、現場に還元できる研究を頑張りたい。
- ・臨床的薬剤師の方からの薬への見方は、本当に人に近く、改めて薬の重要性を知ることができ、人との関わりを考えながら研究したいと思った。新しいものをつくるだけでなく、今あるものの効果を高めることも必要だと感じた。
- ・薬剤師の行う研究と、大学で行う研究の違いが大きいことを感じた。後ろ向き研究が主となる手段であり、患者さんの記憶やカルテに基づいた研究となるため、バイアスに注意しなければならないため、非常に大変であり、結果を生み出すのが困難であると同時に、研究に費やせる時間も少ない。実験器具の不足という問題もある。患者さんに一番近い薬剤師が、満足な時間、器具のある環境で研究し、現場に還元することができたら、医療は良くなるのではないかと感じた。
- ・薬害の話は、先日サリドマイドの話聞いたばかりだったので、とても理解できた。医師の判断ばかりに任せるのではなく、薬剤師もきちんと自分の意見を持って発言するのが大事だと感じた。医師と薬剤師の間にもっと信頼関係が築けるようになれば、薬害はもっと防げるのではないかな。
- ・臨床研究に関し具体例を交えながら話してくださり、まだまだ研究されていない未開拓の分野だと感じた。
- ・すごく面白い話だと思ったが、私は4年制なので、どんなに頑張っても薬剤師にはなれないので、切ない気持ちになった。今までは薬学部卒業者は研究に進んでも薬剤師免許を持っている人が多いので、今後それがどのように変わっていくのが気になる。多分世間からは「薬学部を出てるのに、薬剤師免許を持っていないの？」という目で見られることもあると思う。6年制移行は良いと思うが、こっちのことも少しは考えてほしかった。臨床と研究を両立させているのはすごく魅力的だったと思うので、一度やってみたかった。
- ・薬剤師の医療ミスの事例を知り、薬学は命にかかわる学問だと感じた。肝に命じて勉強していきたい。

- ・処方ミスは絶対にあってはならないと思った。私は4年制なので現場で処方できないのが残念だが、薬局や病院の薬剤師さんがミスなく患者さんに薬を提供できるよう工夫した薬の開発をやっていたら良い。
- ・薬科学科に深く関わる話も聞けたので良かった。これからも意識を高く持ち続けられたら良いと思った。
- ・今まではなかなか聞くことができない、臨床についての話を詳しく聞くことができて良かった。自分は薬科学科なので実際に薬剤師として働くことはないが、将来は薬剤師の人が見つけてきた問題を協力して解決したい。
- ・医薬品を正しく適用するためには、医者に任せっぱなしにするのではなく、薬剤師が率先して薬の処方を考えていくべきだという話を聞いて、医療は医者だけで回っているのではないということが実感できた。医者にできないことを薬剤師がカバーしていくということが、薬剤師の本来のあるべき姿だと思った。
- ・私は薬科学科だが、今回の講義を聞いて、薬剤師の仕事について考えることができた。私はまだどのような研究をし、そのように働きたいか全く決まっていないが、薬の研究をすることで、薬剤師にならなくとも、患者の方と間接的にかかわることができると思った。
- ・6年制でも十分に研究できることがわかった。
- ・薬剤師は調剤以外にも様々な業務があることがわかった。患者はいつも正しく薬を服用するわけではないので、処方するのは至難であると思った。
- ・「先輩と語る」はこれまで製薬系の方の話が多かったので、今回は新鮮だった。ニコチンパッチ等を使った禁煙効果の実験も興味深く、薬の上手な使い方を見つけるアプローチ方法を学ぶことができ良い勉強になった。
- ・薬の名称の間違いなどが発生していることについて、薬の名前をつける時点で改善できないのかと思った。
- ・自分は薬科学科なので、薬剤師ではなく、創薬関係の仕事につくと思うが、薬剤師になる仕組みや薬剤師の意味について学ぶことができ、とても為になった。
- ・6年制の人たちが卒業までにやることを知らなかったのが、実習前に試験を受けなくてはならなかったり、実習も本当の患者さんを相手にやらなければならなかったりと、大変なんだと思った。
- ・東邦大学の実習の画像があったが、施設が相当整っていると感じた。私は4年制だが、とても興味深い話だった。
- ・テレビや新聞で取り上げられている調剤ミスによる医療事故は極わずかだったことを知り驚いた。コンピューターに頼りきった処方ではなく、震災などに備えて昔から続くアナログな形の処方も必要であることは、自分にはない考えだったのでとても勉強になった。
- ・薬を700種類も覚えなくてはいけないのは、とても大変だと思った。今はパソコンがあるので、そういう必要は無いのではと思っていたが、考えが甘かった。私は薬科学科なので、初めはあまり関係のない話かと思ったが、そうではなく、とても興味深い話で為になった。
- ・薬剤師としての仕事をしながら、疫学的臨床研究が可能だと知り、そこから研究へのフィードバックもあるため、薬による医療の向上に薬剤師の寄与は大きいと思った。
- ・病院薬剤師としての研究(臨床研究)についての内容を聞き、6年制でも研究を行うことができるということを理解した。僕は4年制なので、あまり関係ないと思っていたが、研究内容の紹介など、面白い話題もあり有意義な時間だった。できれば去年にこのような内容を行ってくれていたら、選択の幅が広がって良かったと思う。是非、一年生でこのような講義を受けさせてほしい。
- ・疫学的臨床研究は、基礎研究で埋めることのできない“荒さ”を取り除くのもだと感じた。お互いにフィードバックして様々な問題が解決されることにとても興味を持った。様々な薬の組み合わせによる副作用は単体に比べとても難易度が高くなると思う。
- ・薬剤師になるのに6年は長いと思っていたが、臨床現場の現実を見てやはり実習は重要だと思った。自分は薬科学科なので、資格がほしかったと残念な気持ちもあったが、今日の講義を聞きやる事が全然違うので、仕方ないと思った。
- ・4年制でも、製薬の研究の中で、どのようにすれば患者さんに安全に薬を使用してもらえるかということを常に考えながら研究をしたい。

【学部2年生以外】

- ・臨床研究について、興味深い話が聞けて良かった。
- ・他の大学の事前実習の様子を見ることができて興味深かった。
- ・自分は6年制の道に進んだが、研究室は基礎研究のところに配属され、臨床研究について少し興味があった。今日はその話を聞くことができて良かった。